

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円は調整一巡後に一段高か

[10月25日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月18日～10月22日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	114.18	114.70(20)	113.65(21)	113.93	-0.29
ユーロ・ドル	1.1604	1.1669(19)	1.1572(18)	1.1634	+0.0033

=====

国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,804.85	-263.78	日本10年債利回り	0.091	+0.008
ダウ平均株価	35,603.08	+308.32	米10年債利回り	1.701	+0.131

=====

<来週の主要経済統計等>

- 25日 日本8月景気動向指数改定値
- 26日 米8月住宅価格指数
米8月S&Pケースシャー住宅価格指数
米9月新築住宅販売件数
米10月消費者信頼感指数
- 27日 NZ9月貿易収支
豪第3四半期消費者物価指数
米9月耐久財受注速報値
カナダ銀行(BOC)政策金利
- 28日 日本9月小売業販売額
日銀金融政策決定会合(27～28日)・金融政策発表、展望レポート公表
黒田日銀総裁記者会見
独10月雇用統計
欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルドECB総裁記者会見
独10月消費者物価指数
米新規失業保険申請件数
米第3四半期国内総生産(GDP)速報値
- 29日 日本9月有効求人倍率、日本9月雇用統計
日本9月鉱工業生産指数
豪9月小売売上高
豪第3四半期生産者物価指数
スイス10月KOF先行指数
独第3四半期国内総生産(GDP)速報値
ユーロ圏10月消費者物価指数速報値
ユーロ圏第3四半期国内総生産(GDP)速報値
カナダ9月鉱工業製品価格
米第3四半期雇用コスト指数
米9月個人所得・支出
米10月シカゴ購買部協会景気指数
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
- 30日 20カ国・地域(G20)首脳会議(31日まで)
- 31日 衆院選投開票

【前回のレビュー】ドル円は上昇基調が継続しており、いったん調整が入っても底堅い動きが見込まれる。堅調な米企業決算や良好な米経済指標が続くようなら、米株高を受

けての円売りも入りやすいとみられ、ドル円は振幅しながらも上値を追う展開になるとした。

【ドル円は114円台に乗せる】

世界各国では金融正常化に向けた動きが進んでいる。英国では英中銀（BOE）が早ければ11月にも利上げに動くといった観測が出ている。ニュージーランドでは、NZ準備銀行（RBNZ）が10月に利上げに動いた。ユーロ圏では、欧州中央銀行（ECB）が9月に資産購入ペースの減速を決めた。

米国でも11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で量的緩和の縮小（テーパリング）を決定する可能性が高い。一方で、日本では金融緩和が継続される方向で、諸外国のように物価上昇圧力の高まりもない。日本では金融正常化への道筋が見えないこともあり、円売り圧力が強まっている。

また、原油高が続いていることもあり、インフレ圧力が高まっている。インフレ圧力の高まりは、各国中銀の金融正常化への一因となっている。原油輸出国であるカナダドルは上昇傾向にあり、ドルカナダドルは下落基調（ドル売りカナダドル買い）で推移している。カナダドル円も上昇傾向が続いている。

主要通貨の中で、ドルと円は売られやすい通貨となっている。米長期金利が上昇傾向にあり、ドルと比べて円は相対的に売られやすい。ドル円もクロス円も上昇傾向が続いてき、テクニカル面での過熱感もあり、高値圏でやや上値が重くなっている。そうした中でも、円の相対的な弱さは継続するとみられ、ドル円やクロス円が一時的に下落しても再び上昇に転じることとなる。

ドル円は20日に114.70まで上昇して2017年11月以来の高値圏まで上昇した。米10年債利回りがこの日、一時1.67%までしており、ドル買いの動きにつながった。これに加えて米株高などを受けてリスク選好の円売りの動きも広がり、ドル円は114.70付近まで上昇した。ユーロ円、ポンド円、豪ドル円、NZドル円などのクロス円も上昇を見せた。ドルも軟調に推移して、ユーロドル、ポンドドル、豪ドル/米ドル、NZドル/米ドルも上昇基調で推移してきた。いずれも上昇が続いてきたことで、21日には上げ一服となった。

ドル円は20日に114.70付近まで上昇した後は上げ一服となり、高値圏でもみ合いとなっている。ドル円の114円台ではやや上値は重いものの、米10年債利回りは21日に1.70%台に乗せるなど上昇傾向にある。こうしたことを背景にドル円は調整一巡後は一段高が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、113.00～115.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に日本8月景気動向指数改定値、26日に米8月住宅価格指数、米8月S&Pケースシーラー住宅価格指数、米9月新築住宅販売件数、米10月消費者信頼感指数、27日に米9月耐久財受注速報値、28日に日本9月小売業販売額、日銀金融政策決定会合（27～28日）・金融政策発表、黒田日銀総裁記者会見、米新規失業保険申請件数、米第3四半期国内総生産（GDP）速報値、29日に日本9月有効求人倍率、日本9月雇用統計、日本9月鉱工業生産指数、米第3四半期雇用コスト指数、米9月個人所得・支出、米10月シカゴ購買部協会景気指数、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは堅調に推移か】

28日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策に変更はないとみられる。前回（9月9日）の理事会では、主要政策金利を据え置き、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）に関しては、1兆8500億ユーロの規模を維持した。少なくとも2022年3月までは継続する方針も決めた。なお、債券購入のペースはこれまでの2四半期と比べて緩やかにするとしたが、ラガルド総裁は債券購入ペースの減速はテーパリングではないと強調した。

今回は金融政策の変更はないにしても、12月に金融政策の変更を打ち出すとの見方もある。今回、PEPP終了後の新たなプログラムや計画に関するヒントを打ち出して

くる可能性がある。そうした中、金融正常化への道筋を示すようならユーロの支援材料となろう。

米10年債利回りは21日に1.70%台まで上昇するなど、米長期金利は上昇傾向にある。そうした中でも米国株が史上最高値更新を視野に入れて上昇しており、リスク選好のドル売りに振れやすい。ユーロドルは緩やかながらも上昇傾向で推移しており、19日には1.16台後半まで上昇して、21日移動平均線も上抜いてきた。ユーロドルは堅調な推移が継続して、緩やかに上値を追う展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1550～1.1850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、27日にNZ9月貿易収支、豪第3四半期消費者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、28日に独10月雇用統計、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、独10月消費者物価指数、29日に豪9月小売売上高、豪第3四半期生産者物価指数、スイス10月KOF先行指数、独第3四半期国内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏10月消費者物価指数速報値、ユーロ圏第3四半期国内総生産（GDP）速報値、カナダ9月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。